



楷

第四十号

岡山大学
 附属図書館報
 OKAYAMA UNIVERSITY
 LIBRARY BULLETIN

KAI
 No.40

2005
 FEBRUARY

<写真>

かうらいなづな
 郊野處々ニ生ス葉ナツナニ似
 テ大ナリ花アザミニ似タリ

「備前国備中国之内領内産物絵図帳」より（岡山大学附属図書館池田家文庫所蔵）

目 次

図書館学術情報基盤整備の維新（附属図書館鹿田分館長 福井一博）.....	p. 2
学術情報基盤（電子ジャーナル・データベース）の整備について （電子情報係）.....	p. 4
データベース等利用説明会の実施結果について（参考調査係）.....	p. 8
池田家文庫等貴重資料展「岡山城下町をあるく」（参考調査係）.....	p.10
マスカット	p.12
ペッファー文庫、ボランティア、教員業績コーナーほか 会議・研修・編集委員会から	p.14

図書館学術情報基盤整備の維新

福 井 一 博

平成16年4月から岡山大学が法人化の第一歩を踏み出し、それと共に鹿田分館長の任を仰せつかり、半年も過ぎると附属図書館における色々な問題が浮き彫りになって参りました。

経済界のバブルの崩壊後、日本社会のあらゆる分野で変革と革新が進んでいる中で、附属図書館もそのうねりの中にあった。社会のIT化の波は、欧文雑誌の電子ジャーナル化とデータベース化で、附属図書館も、その基盤の充実に取り組んでいた。附属図書館における電子ジャーナル化は平成11年度の試行から始まり、電子ジャーナルの利用可能なタイトル数が平成15年度の394タイトルから16年度に1,441タイトルの閲読可能になったところ、電子ジャーナルの利用実績が倍以上に増え、電子ジャーナルの基盤整備の充実の重要性が示されていた(図1)。しかし、電子ジャーナルを支えている資金源はもっぱら各部局から集められていて、継続的な維持への脆弱性が危惧され、歴代の図書館長から(楳 No.39 2004 October、No.37 2003 October、No.33 2001 October)、電子ジャーナル等の学術情報基盤は大学全体の中央経費から充足されるべきであると、提案されていた。電子ジャーナルの購読維持の不能の懸念から、附属図書館は、平成17年度も電子ジャーナルを継続的に利用するためには、各部局の平成16年度の冊子体数の購読維持が必須であることを広報していた。ちなみに、鹿田分館における外国雑誌購入は平成4年度の430誌であったのが、平成13年度には237誌、更に平成16年度には178誌と削減傾向にあった。

更に、法人化を契機として大学の機構改革にともない、学術研究・情報担当理事(大崎副学長/図書館長)の学術情報に係わる意志決定機関として学術情報運営企画室が平成16年度4月から新設され、鹿田分館長もその構成員のメンバーである。学術情報運営企画室会議は月1回開催され、附属図書館に関する主議題は電子ジャーナル等の図書館情報基盤整備に関することであった。早くも第2回学術情報運営企画室会議(5月2日)において、各学部等に配分される研究費の大幅減により冊子体購読中止を余儀無くされる研究室が続出すると大崎副学長から報告された。平成17年度において平成16年度と同等の電子ジャーナルの購読維持の破綻が明らかになったので、大崎副学長による、岡山大学の学術情報基盤の資金源についての基本方針の提案(図2)を具現化し実行する時となった。それは「附属図書館学術情報基盤経費は約3億円(その内訳は 文科省からの図書経費と全学からの図書共通経費として約1億円、 特別配分経費から1億円、 教育研究環境整備費から5千万円、 部局長裁量経費から5千万円)を電子ジャーナル・データベースと学生図書に充てる。」ことである。この提案が第6回教育研究評議会(9月15日)で審議・承認された。これまでのように学術情報基盤経費が部局負担という脆弱性から解放され、その整備内容は旧七帝大に追随することになった。この情報基盤整備の充実に今後、我々教職員と学生がおおいに活用し、教育・研究・社会活動に貢献できるであろう。皆さん方の電子ジャーナルとデータベースのたいなる御利用をお願いするところです。

(ふくい・かずひろ 鹿田分館長)

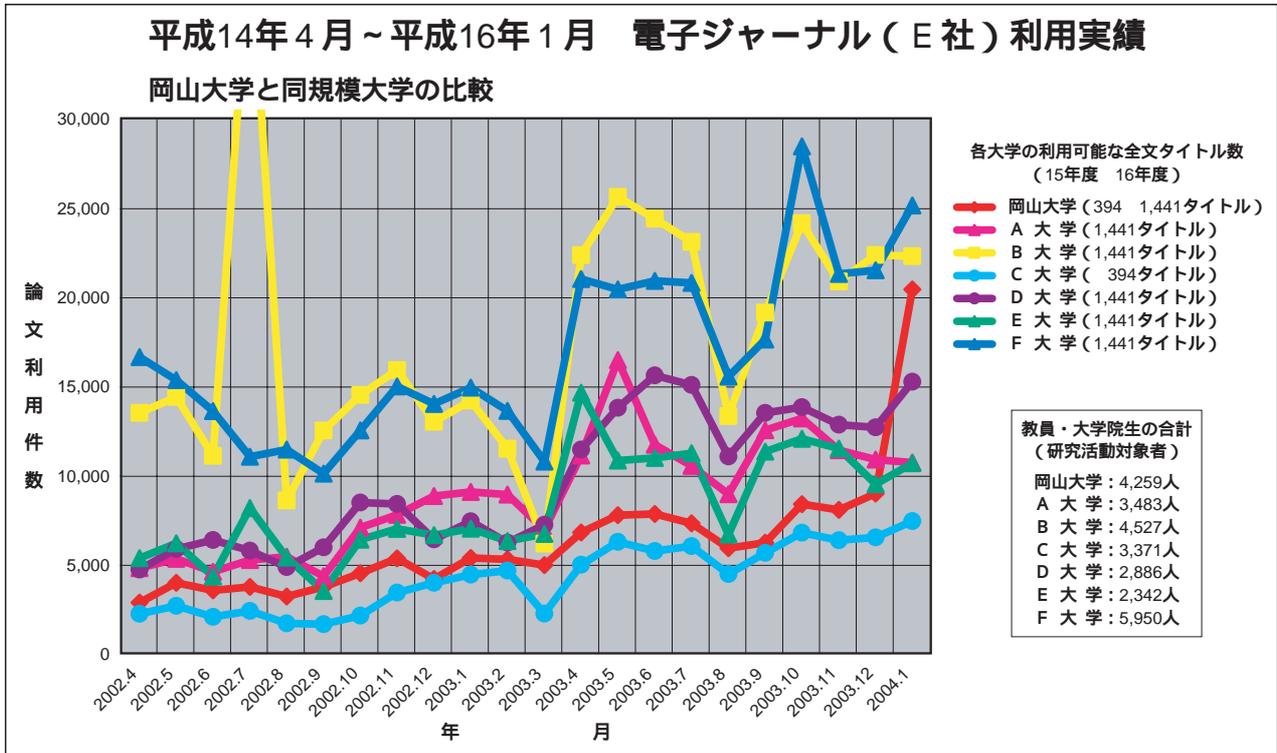


図 1

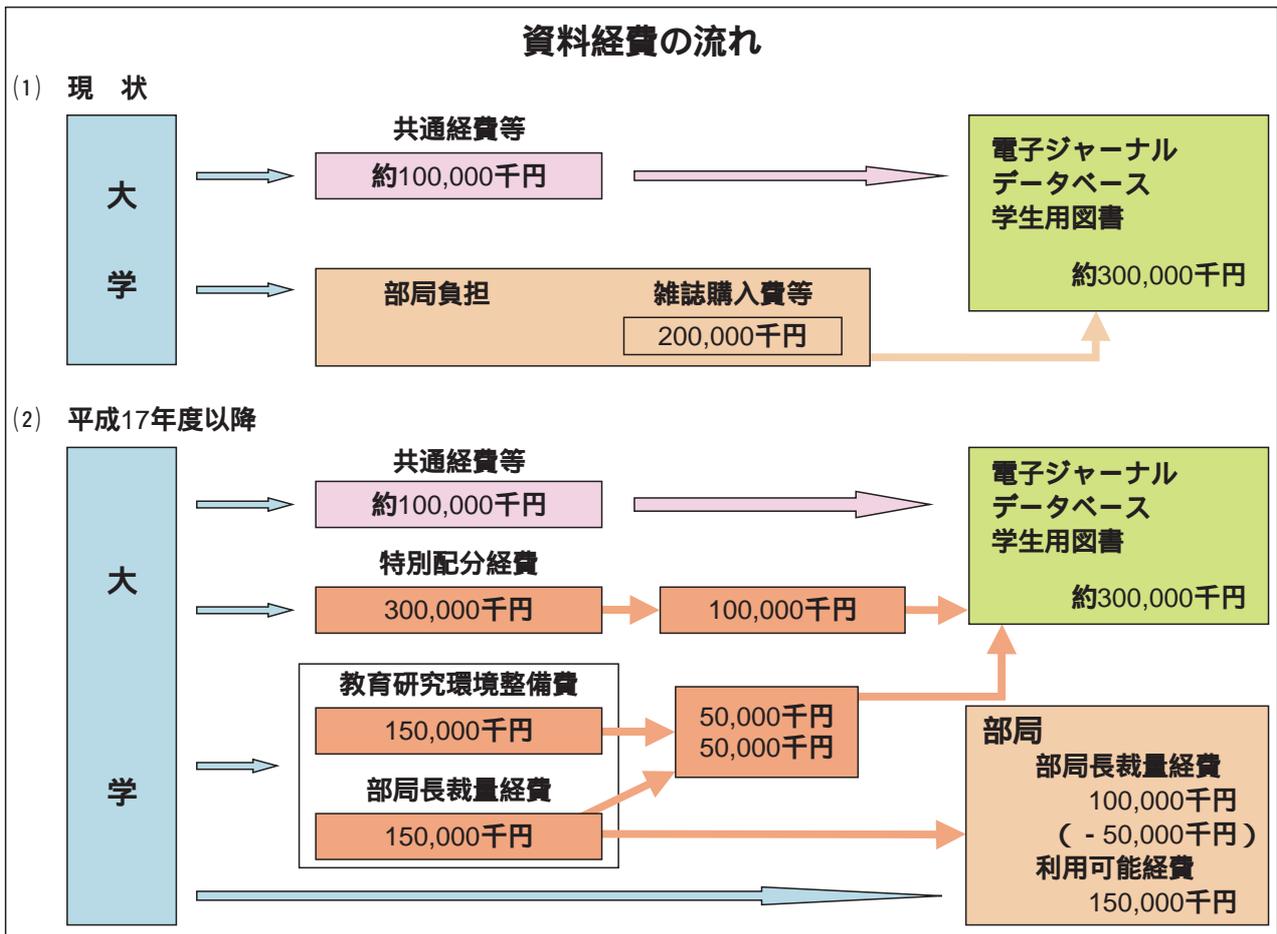


図 2

学術情報基盤(電子ジャーナル・データベース)の整備について

電子情報係

岡山大学の研究・教育支援の礎となる学術情報(電子ジャーナル・データベースおよび学生用図書)に対する全学的な基盤整備が平成17年度からスタートします。「国立大学法人岡山大学中期計画」(平成16~21年度)には「図書館の学術雑誌、特に電子ジャーナル・論文引用情報を含む各種データベースの整備などの情報化を促進する」と記されており、電気・水道・ネットワークなどと同じように、学術情報も学内共通のインフラ資源と認識した上で、分野に関係なく全学予算で提供を行います。こうした全学的な取り組みは、全国的にみても画期的なことであり、その成果として幅広い分野の学術情報基盤を整備することができました(p.6 図1)。電子ジャーナルについては全国トップクラスの情報量を形成することができました。また、データベースについてはWeb of Science/Journal Citation Reportsなどの引用データベースのほか、文学・心理学・経済・法律・数学・物理・化学・生物・工学・医学・看護学・保健学分野における海外文献データベースの安定的な提供を行います。

しかしながら、総合大学に相応しい国際競争力のある独創的な研究活動を支えるためには、ワールドワイドな視点に立って、電子情報や研究スタイルの動向を継続的に把握し、世界標準に劣らない情報量とアクセス環境を保持していかなければなりません。参考までに米国の主要大学と岡山大学における電子ジャーナルタイトル数を比較したグラフを示します(p.6 図2)。なお、ここで言うアクセス環境とは、大学の学術的共用スペース(附属図書館、総合情報基盤センター)に設置するパソコンやプリンター環境、電子ジャーナルリストおよび関連情報(岡山大学蔵書検索・全文・引用データ等)へのリンク機能(OpenURL/SFX)などのナビゲーション環境、大学図書館が作成している学術情報に関するホームページ環境、学術情報アクセスのための利用者教育や窓口サービスの環境、利用マナーを周知徹底させるための環境、を意味します。海外の総合大学と比較する時、単なる情報量の充実を図るだけでは不十分と言えます。例えば、岡山大学と大学協定校となっているサンノゼ州立大学(米国)、シェフィールド大学(英国)、アデレード大学(豪州)のそれぞれの図書館ホームページを見ると、豊富に電子情報資源を整備しているばかりでなく、個々の研究者や学生にとって必要な情報を活用するためのテクニックや知識がWeb上に豊富に紹介されています。このことから見ても、岡山大学は今後、学内におけるデジタルデバイドの解消や学術情報の利用方法に関する情報提供の充実を図らなければなりません。

一方で、大学の厳しい財政的状況を考えると、毎年の値上りや費用対効果を視野にいれた計画案の策定・評価基準の確立・契約コストの節約が厳しく求められます。平成17年度契約は、Elsevier社やSpringer社などと直接契約を行い、消費税や代理店手数料のコスト減を図りました。またAmerican Physical Society、American Chemical Society、Royal Society of Chemistry、IEEE、Association for Computing Machinery、Kluwer(現Springerに統合)、Karger、Cambridge University Press、Oxford University Pressの学協会・出版社の電子ジャーナルは、全国レベルのコンソーシアムに参加した結果、全学利用で比較した場合の低コスト化と次年度の契約に向けた値上り率の抑制

(プライスカップ)を行うことができました。今後の課題としては、電子ジャーナル・データベース契約にあたり海外出版社・代理店の担当者と正確なコミュニケーションを行うための英会話能力を持った人材の確保、更には直接交渉・直接契約の拡大による消費税や手数料の節約等の斬新な取り組みがあげられます。

ここ20数年の情報サービスとメディアの変遷 (p.7 図 3) を眺めてみると、インターネットの出現とともに学術コミュニケーションはめざましい変化と発展を遂げていることがわかります。自分の研究に必要な論文は、研究者や学生自身が検索・入手する時代となっています。データベースや電子ジャーナルの充実とともに、論文検索や入手に関する環境は以前と比べると飛躍的に拡充したといえます。しかし、これで十分なわけではありません。

岡山大学では、電子ジャーナルやデータベースの基盤整備を行うとともに、情報検索から論文入手までを迅速かつ効率よく利用してもらうための仕組みを導入します。平成17年度における内容は、最新の状況を反映したアルファベット順の電子ジャーナルリスト、分野別の電子ジャーナルリスト、岡山大学蔵書検索からの電子ジャーナルへのリンク、データベースの検索結果からの論文入手のためのナビゲーション、を提供します。これらの流れを図4 (p.7) に示します。なかでもナビゲーションシステムについては、国内の大学ではあまり導入の報告がされていないことを考えると、先進的な取り組みと言えます。

電子ジャーナルの利用に関する注意事項

電子ジャーナルの利用にあたっては、各出版社や学協会等が利用許諾条件や利用合意書 (Terms and Conditions、Agreement) を定めています。許諾条件等に違反した場合は、大学全体が利用制限を受けたり、法的措置をとられたりしますので遵守してください。

どの出版社においても、おおむね以下の事項は禁止されています。

- 1 . 岡山大学の教職員・学生以外の利用
- 2 . 契約範囲 (同一市内、地区、キャンパス等) の制限がある場合、契約以外のキャンパス等からの利用
- 3 . 個人利用以外の利用
- 4 . 大量のダウンロード
- 5 . 複製物の再配布、第三者への譲渡

情報サービスとメディアの変遷

研究・社会には競争がある。
 情報入手の環境は時代と共に変化している。
 新しい情報サービスの移り変わりが早くなっている。



図 3

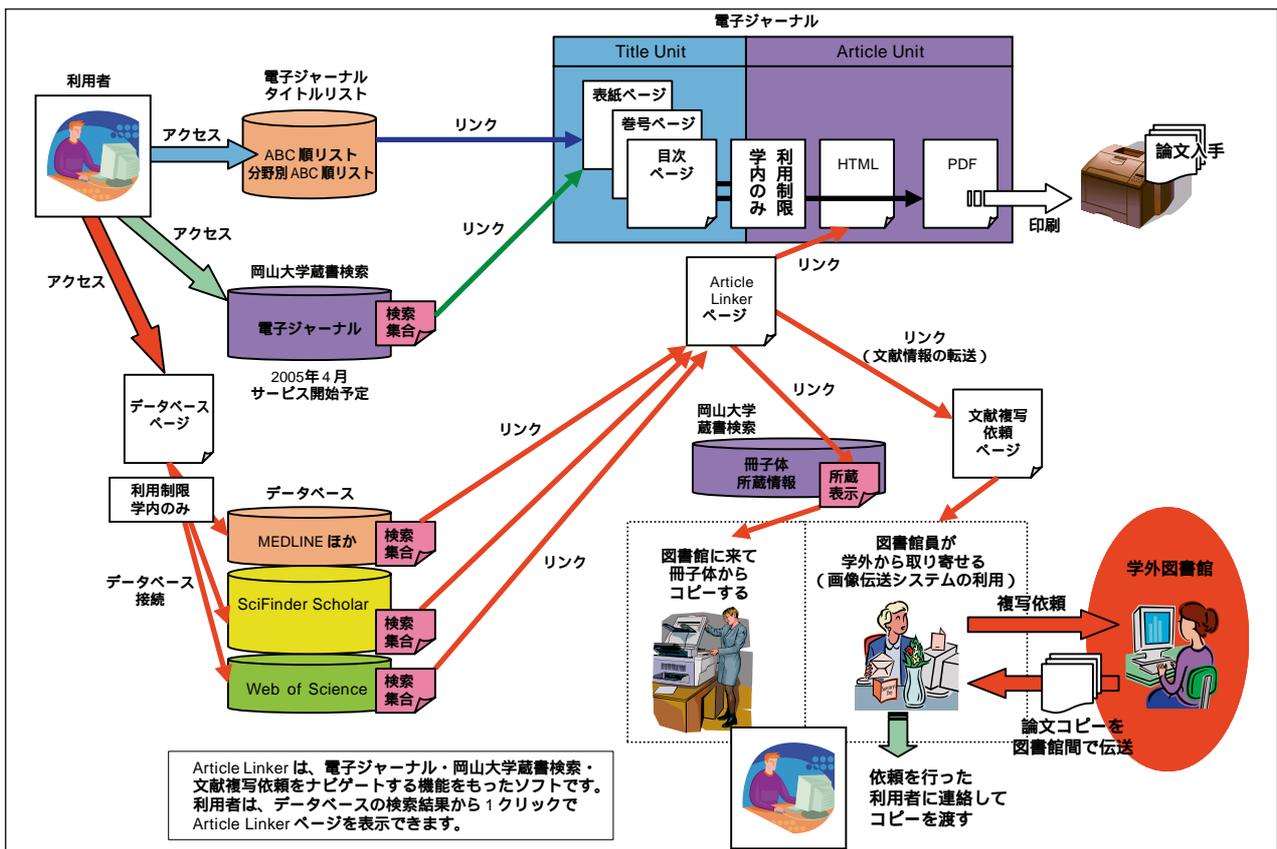


図 4

データベース等利用説明会の実施結果について

参考調査係

はじめに

平成16年9～12月にデータベース等の利用説明会を開催しました。本稿ではそれらの実施結果と来年度の予定についてお知らせします。

平成16年度の実施結果

外部より講師を招いて6種類、9回の利用説明会を開催し、延べ331名の方にご参加いただきました。詳細な実施結果は以下のとおりです。

SciFinder Scholar 利用説明会（中央館）

- 実施日時：平成16年9月30日(木) 第1回 10：20～11：50（90分）
第2回 14：20～15：50（90分）
- 会場：総合情報基盤センター 情報実習室4
- 参加人数：第1回 37、第2回 29、計66
- 講師：(社)化学情報協会 芦田仁氏
- 内容：化学関連の文献、物質、反応を収録したデータベースについての説明

ScienceDirect 利用説明会（中央館）

- 実施日時：平成16年10月7日(木) 14：20～15：50（90分）
- 会場：総合情報基盤センター 情報実習室2
- 参加人数：73
- 講師：ゼファー(株) 瀧本まゆみ氏
- 内容：電子ジャーナルサービスについての説明および検索実習

LEX/DB 利用説明会（中央館）

- 実施日時：平成16年12月15日(水) 14：20～15：50（90分）
- 会場：総合情報基盤センター 情報実習室4
- 参加人数：15
- 講師：(株)TKC 横市彰文氏
- 内容：判例等法律情報を収録したデータベースについての説明および検索実習

Web of Science 利用説明会 自然科学分野（中央館）

- 実施日時：平成16年12月16日(木) 第1回 10：20～11：50（90分）
第2回 14：20～15：50（90分）
- 会場：総合情報基盤センター 情報実習室2
- 参加人数：第1回 55、第2回 63、計118
- 講師：トムソンサイエンティフィック 矢田俊文氏
- 内容：引用文献データベースについての説明および検索実習

Web of Science 利用説明会 自然科学分野（鹿田分館）

- 実施日時：平成16年12月16日(木) 18：30～20：00（90分）
- 会場：鹿田分館 講堂
- 参加人数：31
- 講師：トムソンサイエンティフィック 渡辺麻子氏
- 内容：引用文献データベースについての説明

Web of Science 利用説明会 人文・社会科学分野（中央館）

- 実施日時：平成16年12月17日(金) 第1回 10：20～11：50（90分）
第2回 12：40～14：10（90分）
- 会場：総合情報基盤センター 情報実習室4
- 参加人数：第1回 11、第2回 17、計28
- 講師：トムソンサイエンティフィック 矢田俊文氏
- 内容：引用文献データベースについての説明および検索実習

平成17年度の実施予定

平成17年度は、9～10月を中心に上述のような外部講師による各種データベース等の説明会を行う予定です。詳細な日程等が決定次第ご案内いたします。

皆様のご参加をお待ちしております。

池田家文庫等貴重資料展「岡山城下町をあるく」

参考調査係

はじめに

平成16年10月23日(土)から11月1日(月)まで10日間に亘り、附属図書館新館5階特殊資料展示室において、恒例の貴重資料展を開催しました。テーマは「岡山城下町をあるく」です。池田家文庫には、岡山藩主池田光政が鳥取から岡山に入部した前後の城下町の状況を示す絵図をはじめ、江戸時代の岡山城下町を描いた絵図が何種類も残されています。今回はそのうちの一つである慶安年間(1648~52)に作られたと思われる絵図をもとに当時の岡山城下町を歩いてみようというコンセプトで展示が行われました。旭川と西川にはさまれた城下町は、西方の毛利氏を意識した空間構成でした。西国街道から川東へ入り、城郭と石垣・堀を眺め、城下町をぐるっと回って、船で瀬戸内海へ出るというストーリーで展示の構成を行いました。

資料展には、学内外から461名が訪れ熱心に鑑賞され、また、多くの方々から貴重なご意見をいただきました。ここにそれらをまとめて報告します。

展示品一覧

- | | |
|-----------------------------|----------------------|
| 1. 備前国岡山城絵図 | 14. 東照宮御祭礼諸事留 |
| 2. 備前国岡山城下図(川東) | 15. 西川大用水筋町並絵図 |
| 3. 池田近江下屋敷之図 | 16. 岡山絵図 |
| 4. 三石国境ヨリ森下迄沿道之図 | 17. 備前国岡山城下図(川西・中) |
| 5. 岡山より和気郡三石村船坂峠迄御道筋
絵図 | 18. 御城下町数家数并男女人数有人改帳 |
| 6. 池田家履歴 | 19. 町会所絵図 |
| 7. 京橋掛替二付渡り場絵図 | 20. 市政提要 |
| 8. 京橋作事記 | 21. 法令集 |
| 9. 上之町裏石垣損所絵図 | 22. 下出石町惣絵図 |
| 10. 岡山城二之曲輪堀端石垣修復願につき
書付 | 23. 備前国岡山城下図(川西・南) |
| 11. 備前国岡山城堀浚修復願絵図 | 24. 御船入絵図 |
| 12. 岡山城堀浚願いにつき老中連署奉書 | 25. 大川筋埋り堀浚下絵図 |
| 13. 備前国岡山城下図(川西・北) | [参考]
岡山古図 |

講演会

10月30日(土)午後2時から岡山市デジタルミュージアム開設事務所・乗岡実氏の「岡山城下町を掘る～絵図と遺構～」と題して、附属図書館新館5階大会議室で講演会が開催されました。絵図を見ただけではわからない事、遺構だけではわからない事、それぞれを重ね合わせて見えて来る事など、説明をしていただき約60名の来場者の方々には興味深く聞き入っていました。

来場者統計

来場の情報源（複数回答）

新聞 8.6% ポスター 40.5% ホームページ 5.6%

その他 45.0%

その他内訳（知人より、先生より、昨年もあったので、来館して等）

来場理由（複数回答）

内容に興味 68.4% 図書館に興味 4.8% 時間に余裕 17.8% 近いから 17.1%

その他 8.1%

その他内訳（先祖調査、江戸時代の資料が見たかった、めったに見られないから、気が向いたから、池田家文庫を見たかった、講座・授業で等）

展示点数

適当 71% 少ない 25% 多い 3% 無回答 1%

解説内容

普通 72% 易しい 12% 難しい 10% 無回答 6%

その他意見など

- 展示期間がもう少し長いとありがたい
- 絵図と現代の地図が対応しているコーナーがおもしろかった
- 今の岡山との比較がわかりやすかった
- 展示品の文字が見えにくかった
- 絵図に関する参考文献など併せて展示して欲しい
- もっとハデな色づかひの絵図も見たかった
- 系図の記号の説明がほしい

ほか多数いただきました。

おわりに

城下町という事で、地元の方たちには身近な話題で興味を持っていただけたようです。資料展の開催についてはいつもPR不足を指摘されています。今回もその感が否めません。次回にむけての課題として検討しようと思っています。

マスカット

ペッファー文庫のしおり配布（資源生物科学研究所分館）

平成16年11月3日に行われた倉敷市立自然史博物館の第4回「自然史博物館まつり」に、資源生物科学研究所も90周年記念事業として参加しました。その中で、ダーウィン自筆の献辞をしおりにして、訪れた方々にお渡ししました。

この献辞は、資生研分館のペッファー文庫に収蔵されているダーウィン著「The Power of Movement in Plants」(London, 1880)にある自筆で、しおりはこれを元に資生研分館にて作成したものです。

ペッファー文庫は、ドイツの植物生理学者であったW. Pfeffer博士(1845 - 1920)の蔵書を資生研の前身大原農業研究所の創設者である大原孫三郎氏が購入したものです。貴重書として資生研分館の書庫に別置しており、別途申請していただかないと閲覧できませんが、一部は1階に展示しておりますので、ご覧ください。

図書館ボランティア活動状況（中央館）

中央館のボランティアは、平成16年4月から新メンバーが加わり、平成17年1月現在、男性7名、女性6名の方が活動しています。4月から12月までの活動時間は延べ1,819時間となり、今年度からご協力いただいている遡及入力では1,288冊の図書が登録されました。12月22日には恒例となった図書館との懇談会を開催したところ、多数の参加を得て、楽しく意見交換ができました。

教員業績コーナーの設置について（中央館）

教員業績コーナーを中央館本館1階、新館への通路沿いに設置しました。これは中央館が、平成11年から名誉教授を含む本学教員の方々からのご寄贈により収集した、図書及び報告書等著作物をまとめたものです。部分執筆、編集、翻訳等も対象としています。これらの著作物は、本学附属図書館ホームページ(<http://www.lib.okayama-u.ac.jp/>)上の「蔵書検索」から検索でき、通常の利用に供しています。

教員からの寄贈図書リスト

次の方々から著書をご寄贈いただきました。ありがとうございました。

中央館 教員業績コーナー（本館1階）に配架

岡本 章 [経]

Tax policy for aging societies : lessons from Japan Springer, 2004 (345.1/O)

亀井千晃 (分担執筆) [薬]

アトピー性皮膚炎・最近の話題 : 免疫学 環境因子 薬理学 メジカルセンス, 1998 (494.8/A)

神立春樹 [名]

岡山大学の三十年 : 研究と教育と 岡山近代史研究会, 2004 (377.04/K)

- 後期中等教育の理念を追って：二松學舎の高校長の二年間
二松學舎松葉叢書刊行会，2003 (370.49/K)
- 劔持 淑 [外]
Moral dilemmas of the middle classes in E.M. Forster's novels Eichosha, 2003 (930.2/F)
- 佐伯民江 [文]
日・韓英語教育比較研究：博士學位論文 佐伯民江，2001 (830.7/S)
- 田坂賢二 [薬]
New advances in histamine research Springer, 1994 (491.5/T)
- 塚本 修 (編著) [理]
局地気象学 森北出版，2004 (451/K)
- 諸川重剛 [環]
Kurt Vonnegut：漫画的小説の健全性 岡山大学環境理工学部，2002 (F939/M)
Richard Brautigan Norman Mailer：(石原慎太郎・大江健三郎)
：中心と周縁、社会と個人：乗り越えていくヒーロー、アンチ・ヒーロー
岡山大学環境理工学部，2003 (F939/M)
- 山口信夫 [文]
疎まれし者デカルト：十八世紀フランスにおけるデカルト神話の生成と展開
世界思想社，2004 (135.23/Y)
- 和田道夫 [文]
Aspects of the principles and parameters syntax Faculty of letters, Okayama University, 1999
(801.5/W)
- 和田 豊 [経]
価値の理論 桜井書店，2003 (331.6/W)
- 鹿田分館**
- 粟屋 剛 [医]
法と生活：憲法をくらしのなかに 第6版(分担執筆) 創言社，1994 (321/HO)
法と生活：憲法をくらしのなかに 第7版新訂(分担執筆) 創言社，2000 (321/HO)
生命倫理学講義：医学・医療に何が問われているか(分担執筆) 日本評論社，1998
(490.1/SA)
医療事故(共訳) ナカニシヤ出版，1998 (498.1/IR)
医療テクノロジーと生命倫理(編著) 徳山大学総合経済研究所，2000 (490.1/NA)
愛ですか？臓器移植：議員と市民の勉強会報告集 増補改訂版(分担執筆)
社会評論社，1999 (490.1/AI)
いのちの未来・生命倫理(分担執筆) 法蔵館，1996 (490.1/TA)
人体部品ビジネス：「臓器」商品化時代の現実 講談社，1999 (490.1/JI)
現代法学(分担執筆) 法律文化社，1999 (321/MI)

(敬称略五十音順)

会議

学外

16.10.7 ~ 10.8

平成16年度国立大学図書館協会
中国四国地区協会実務者会議
(於 鳥取大学地域共同研究センター)
・法人化後の図書館業務の諸問題

10.18 ~ 10.19

第45回中国四国地区大学図書館研究集会
(於 岡山大学50周年記念館)
・大学図書館とマネージメント

11.26

平成16年度中国四国地区
国立大学図書館所管部課長会議
(於 岡山大学附属図書館)
・図書館活動の近況について

11.29 ~ 11.30

第17回国立大学図書館協会シンポジウム
(於 広島大学中央図書館)
・法人化後の大学改革と大学図書館のあり方

12.2 ~ 12.3

第40回日本医学図書館協会
中国・四国部会総会
(於 山口大学図書館医学部図書館)
・医学図書館共通問題の研究討議

学内

16.12.16 平成16年度第2回附属図書館運営委員会

研修

- ・平成16年度中国地区著作権セミナー
参加者 青井嘉子、黒原昌子 (16.9.9 ~ 9.10)
- ・平成16年度岡山大学語学
(英語・中級レベル) 研修
参加者 岡 篤史 (16.10.5 ~ 17.2.1)
- ・平成16年度NAIST電子図書館学講座
参加者 大園隼彦 (16.11.1 ~ 11.2)

- ・平成16年度大学図書館職員講習会
参加者 四方幹子 (16.11.9 ~ 11.12)
- ・平成16年度岡山県大学図書館協議会第1回研修会
参加者 藤原智孝、久磨由美子、青井嘉子
(16.11.11)
- ・平成16年度学術情報リテラシー教育担当者研修
参加者 竹下啓行 (17.1.19 ~ 1.21)

編集委員会から

「楳」も1985年の創刊から20年を経過し、号を重ねて40号を発行することになりました。2005年からは、電子化された外国雑誌は冊子体が大学に届かなくなり、図書館の利用やサービスのあり方も異なってまいります。図書館利用者の要望に応じて、図書館も変化しなければなりません。

他大学等の方には冊子体としての「楳」の配布は今回が最後になりました。今後は本学附属図書館ホームページからご覧ください。

岡山大学附属図書館報「楳」 No.40 平成17年2月28日

発行人 仲野憲一 編集 広報誌編集委員会

岡山大学附属図書館発行 〒700 8530 岡山市津島中三丁目1-1 電話 086-252-1111

ホームページURL <http://www.lib.okayama-u.ac.jp/>